

まず、「二拍」というのは必ずしも「二文字」とは一致しないことを知っておきましょう。小さい「やゆよ」(拗音)は、それ単独で「一拍」とは数えないのです。たとえば、「きょし」というのは「きょ・し」というふうに「二拍と数えます」。

小さな「っ」「(促音)は「しゃっくり」▼「しゃっく・り」のように「一拍と数えてください」。

二拍の読み方で、二拍目、つまり末尾が「ウンチクキツイ」だったら、音読みである可能性が高いです。

(例) 空(クウ)・円(エン)・日(ニチ)・悪(アク)・席(セキ)
達(タツ)・愛(アイ)

【例外】二拍の読みで、二拍目が「うんちくきつい」なのに訓読み
秋・息・粹・幾・市・五・内・沖・奥・貝・柿・神・口・靴・恋
先・隙・背・関・滝・竜・竜・月・土・時・栃・問・夏・何・新・軒・後
灰・蜂・初・縁・舞・牧・巻・町・街・松・道・餅・夕・雪・宵・八
脇・枠

例外が多めですが、二拍の読み方で音読みになるとしたら、二拍目は「ウンチクキツイ」の七種類しかないことは間違いないので、

・二拍の読みで「二拍目が「ウンチクキツイ」なら音読みの可能性大(訓読みもありえる)

・二拍の読みで「二拍目が「ウンチクキツイ」でないなら訓読みと覚えておきましょう。

★よくでる間違えやすい音読み

本(ホン)	天(テン)	番(バン)	客(キヤク)	図(ズ)
陸(リク)	王(オウ)	台(ダイ)	曲(キョク)	字(ジ)
役(ヤク)	肉(ニク)	駅(エキ)	愛(アイ)	絵(エ)

★よくでる間違えやすい訓読み

原(はら)	相(あい)	身(み)	場(ば)	屋(や)
関(せき)	夕(ゆう)	路(じ)	野(の)	荷(に)



① 基本的にはこう考えよう

(1) それだけで**意味の分かる**読み方 ▼**訓読み**

(2) それだけでは**意味の分からない**読み方 ▼**音読み**

② 鉄板パターンを覚えておこう

(1) **送りな**を必要とする読み方 ▼**訓読み**

(2) 読み方が**4字以上** ▼**訓読み**

(逆をいうと音読みの読み方は必ず3字以下)

(3) **濁音**や**ラ行**で始まる読み方 ▼**音読み**

③ わりと多い「**読みが二拍**」の場合

(1) **小さい**「やゆよ」(拗音)を**ふくむ**読み方 ▼**音読み**

(2) **二拍目(末尾)**が「**ウンチクキツイ**」 ▼**音読み**

(3) **二拍目(末尾)**が「**ウンチクキツイ**」以外 ▼**訓読み**

① 「送りな」と「くわく」 漢字辞典での表記

・音読み＝中国語 ▼ 外国語 ▼ カタカナ

・訓読み＝日本語 ▼ ひらがな

② 「送りな」と「くわく」

(1) 「送りな」は、日本語として「意味が分かる」ように添えられている文字ですから、送りなを必要とする読み方は「訓読み」ということとなります。

【例外】「接」の「屈」の「生」の「の」の「ひ」の「す」の「ん」の「の」の部分には音読みになります。

(2) 「承」や「著」の「の」の「ひ」に送りながついてくるのは必ずしもありませんが、送りながついていなくても、**読み方が4字以上の場合**は**訓読み**になります。

例・「志」「公」「詔」「私」など

逆「い」の「音読みの読み方は必ず3字以下」です。

(3) **濁音**や**ラ行**(フリルレロ)で始まる読み方は**音読み**です。「額」

を入れて飾る」の「額(ガク)」などは、それだけで意味が分かるので訓読みと間違えそつですが、濁音はじまりの読みなので音読みになります。

【合】「残」「字」などもすべて音読みです。

【例外】「路」「場」これらは濁音なのに訓読みです。